

認定特定非営利活動法人 **日本雲南聯誼協会**
 【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区山谷左内町 21-13 1 階
 Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
 Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/
 【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
 Tel:+86-871-63311468 Fax:+86-871-63320658
 f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa
 ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
 編集・発行人 初鹿野 恵蘭
 印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社/デザイン Hope Company



彩雲の南

Japan Yunnan
Friendship Association

第60号

発行日 2017年(平成29年)2月15日

会
報

25の 小さな 夢基金



心と心の絆が育む夢基金

サポーターの思いと春蕾生の感謝の気持ち
たくさんの愛があふれています



●2016年12月25日 サポーターの皆様から寄せられたプレゼントを初鹿野理事長が届けました

経済発展を続ける中国。その一方で雲南省の山奥には貧しさゆえに学校で勉強することさえできない少数民族の子供たちが今もたくさんいます。「女の子は早く結婚して子どもを産む」

——封建的な考えが根強く残る少数民族の女子に学校で勉強を続ける機会を与え、「運命を変えてほしい」という願いから 2006 年に昆明市女子中学に在籍する春蕾生を 1 対 1 で支援

する「25の小さな夢基金」プロジェクトを開始。2016年9月には第11期95名が入学し、これまでに支援した生徒は650名にのぼります。大部分の生徒は「高校卒業と大学進学」の夢



を叶え、第4期までの生徒は既に大学も卒業して、公務員や教師、社会人としてそれぞれの場で奮闘しています。

春蕾生は親元を離れ学生寮で苦学を分かち合いながら、早朝から夜遅くまで夢を叶えるために勉強を続けています。そんな彼女たちの心の支えの一つはサポーターの存在です。

春蕾生は夢基金の支援決定後と中国のお正月である春節や学年末に、そして卒業時にサポーターにお手紙を書き、サポーターの皆さんからも支援する春蕾生へお手紙を書いていただいています。

サポーターの歌川榮子さんの温かい思いが込められたお手紙と楊紫微さん(昆明市禄勳彝族ミャオ族自治県嵩山鎮出身、1族、3年生)の感謝の気持ち溢れるお手紙を紹介します。

25の 小さな 夢基金

「一対一の支援」こそが私の理想



▲サポーター・鄒坤龍さんと理事長

わたしは19人の春蕾生から「叔父さん」と呼ばれています。わたしは幼くして父を亡くしました。家は貧しく、理想の学校へ進むことができませんでした。それ故に、貧困によって学校へ行けない子どもたちの心情は身にしみて理解できます。山間僻地の子どもたちは、就学年齢を迎えても早々と学校へ行くことを諦め、畑仕事を継ぐか結婚して子どもを産むか、あるいは町へ出て働くしかありません。でも、学ぶことができれば、彼らの人生にはチャンスと可能性が待っています。子どもたちは本を読み、学校へ行くことによって成長し、自分の限界を広げ、

サポーター・鄒坤龍さん

人生を変えることができます。

わたしは社会のために役立ちたい、たくさんの人を助けたいと思っていました。そして、いろいろなボランティア活動に積極的にかわり、「どんな事業が人の運命に影響を与えることができるか」と悩み続けてきました。そんな中で偶然日本雲南聯誼協会と出会い、「25の小さな夢基金」の一対一の支援によって多くの女子高校生が教育を受け、心身ともに健やかに成長し、自立・自信・努力の観念を身につけていることを知り、わたしがずっと心に抱いていた不満が解消しました。「一対一の支援」こそわたしの理想だったのです。恵蘭理事長の努力と呼びか

けのもと、内外の心優しいたくさんの方々がこのプロジェクトに参加していることを知り、わたしも一人の中国人として、このボランティアに参加するのは自分の責任だと感じました。

「25の小さな夢基金」に参加する機会を与えていただいた許峰会長、丁勇軍さん、恵蘭理事長にお礼を申し上げます。子どもは国の希望、家庭の未来です。未来は子どもたちのものです。より多くの子どもたちがより良い教育と健やかな成長を享受し、自らの努力によってそれぞれの未来を手にするできるよう、みなさまと手を携えて前進して行ければ幸いです。

鄒坤龍(スウ・コンロン)/訳:平田栄一さん(会員)

25の 小さな 夢基金

手紙に込められた愛と慈しみの心が人を育てる

サポーター・歌川榮子さんから 楊紫微さんへの手紙

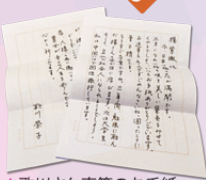
楊紫微 様

今、日本は梅の花が満開です。三月になれば桜も咲き美しい景色をみせてくれるでしょう。いつもお手紙ありがとうございます。お返事も差し上げずごめんさいね。困ったことに筆不精なのです。

もうすぐ卒業ですね。三年間、勉強に励んだ楊さんの姿が目につきます。次は大学生。そして、立派な社会人になれることでしょう。私は中国には十回旅行しています。その内雲南には二回参りました。中甸で会った若者のことは忘れません。詳しいことは書けませんが、彼の目は輝いていました。どうぞこれからも励んでください。そして、自分の為、人様の為に働いてください。

貴女が幸せな人生を歩んでくれることを心から祈っております。

歌川榮子



▲歌川さん直筆のお手紙

支援学生・楊紫微さんから 歌川榮子さんへの手紙

親愛なる歌川榮子おばあさま

こんにちは!

まもなく年末になります。私は新年の到来を楽しみにしています。このような時期に私はよくにおばあさまのことを思い出しています。お変わりありませんか。新年を祝う爆竹が鳴る時、私は爆竹の音におばあさまへの祝福を託します。楽しい新年を迎えることをお祈りします。

私は17、18歳の青春時代にいます。まさに花のような年齢です。もうすぐ大学受験ですから毎日がたいへん忙しく、充実して過ごし、夢を追いかけています。これが私の今の状況です。おばあさまは時々ご自分の青春時代を思い出したりしますか。過去を振り返ると、私は



▲楊紫微さん(3年生・1族)

おばあさまの優しいお気持ちと愛情に包まれ、いろいろとご心配いただき、助けていただきました。私は心からおばあさまに感謝しています。おばあさまがお幸せに楽しく過ごされることを願っています。縁というのは不思議なものです。私たちは縁があるから、こんなに離れていても心の中からは相手のことを思い、相手の幸福を願っています。私は縁を信じています。高校時代はもうすぐ終わります。もしかしてこれは最後の手紙かもしれません。私はたいへん名残惜しいです。しかし、どんなに離れていても、私は決して今まで受けた温もりと愛情を忘れません。私は自分の人生の中の大切な出会いとご縁をいつまでも覚えてい

す。優しいおばあさまのこと、美しい桜の花が咲く日本という国のこと、私はずっと覚えています。まもなく新年がやってきます。私は最大な祝福をおばあさまに贈ります。おばあさまに感謝の気持ちを込めて。どうかよいお正月をお迎えください。どうかお元気でありますように。

楊紫微



「25の小さな夢基金」 2017サポーター予約受付中

◀2016年入学
第11期生のみなさん

今年も9月に新しい春蕾12期生が入学します。ただいまサポーターの予約を受け付けています。

サポーターになって春蕾生の夢をいっしょに叶えませんか?

お問い合わせ・申し込み→東京本部事務局(月～金、10～18時)
TEL 03(5206)5260 yunnan@jyfa.org

熊本地震支援プロジェクト

温かい愛がたくさんつまった
震災義援金をお渡ししました

●熊本市・益城中央小学校

雲南NGO・雲南自然与文化遺産保護推進会
(YNC)から熊本・益城中央小学校へ

2016年4月14日夜、熊本で大地震が発生し、県中央に位置する益城郡益城町では震度7を記録しました。地震発生時、初鹿野恵蘭理事長はちょうど雲南に出張しており、雲南の自然遺産保護を訴えるNGO「雲南自然与文化遺産保護推進会 (YNC)」の方兵会長から、「YNC有志からの義援金を被災地に届け

▲右 雲南自然与文化遺産保護推進会・方兵会長

てほしい」と連絡が入り、義援金をお預かりしました。九州大学名誉教授の樋口忠治協会顧問に相談したところ、益城町立益城中央小学校を紹介していただき、11月に同小学校に義援金を届けました。廣瀬誠一郎校長からのお礼のお手紙を紹介します。



▲2017年1月30日現在 震災の傷跡が残る益城町

熊本市上益城郡益城町立益城中央小学校

廣瀬誠一郎校長から届いたお手紙

「今日も地震があったね」が4月の日常の会話。「どれだけ雨が降れば、青空が顔を見せてくれるのだろう。」「青空はどこかに行ってしまったのだろうか。」と本気で疑った連日の雨続きだった6月。かと思えば、「暑い〜」の連発、蒸し暑さこの上ない晴天の日々であった7〜8月。弱音を吐きたくはないと心に決めてはいるものの、なかなか自然の激しい試練を受け入れることができない毎日から、早くも7ヶ月が経過しました。

この度は、日本雲南連誼協会様には、遠く熊本県益城郡にまでご配慮をいただき誠に有難うございました。

思い出しますと、「前震」が発生した4月14日(木)は、小学校ではどこでも実施し

ています「交通安全」を例年通り行い、1年間の児童の安全な登下校を誓い合った日でもありました。

そして、その日の夜9時26分に「前震(M6.5, 最大震度7)」が発生し、16日(土)夜1時25分には本震(M7.3, 最大震度7)となりました。16日(土)は、早朝から学校に出勤し、学校の悲惨な状況を目の当たりにすることになりました。校舎内では多くのガラス窓が割れ、校舎と校舎の連結部分が全て破損しました。他校ではグラウンドにひわれが入り、側構は歪み、柵はめくれ上がっていました。

その日から、あつという間の7ヶ月でした。なかなかハードな面で改修は進みませんが、とにかく走り続けた7ヶ月でもありました。

その間、走り続ける力の原動力になったのは、子ども達の笑顔であり、今回いただきましたような皆様方の温かいお励ましの言葉でありました。

本校についてもう少し申し上げますと、5月1日現在では児童数455名でしたが、転出等による急激な減少から現在は450名まで回復してきました。周辺市町村にしか住まいとなるアパート等を見つけることができず校区外から通学してくる児童や仮設住宅から路線バスを利用して通学してくる児童が70名を超えています。1学期(7月27日が終業式)いっぱい、被災を受けた町立第五保育所(70名)と木山中学校(270名)が本校校舎の中で一緒に勉強を続けていましたが、2学期になりこの厳しい状態は解消されました。1学期に予定していた「運動会」も9月に実施することができ、ほっとすることができました。2学期もあとわずかとなり、今は学力の充実と心のケアに全力



●画像入りで現状を詳細にお伝えいただきました

を傾けているところです。

最後になりましたが、今回、皆様方から頂きました義援金は子どもたちの為となるよう大切に活用させて頂いております。本当に感謝いたします。今後益々、日本雲南連誼協会様のご活躍が充実したものとなりますようご祈念申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございます。



協会の2011年より始まった「アジア未来への人材育成プロジェクト」は大学生を中心にアジアで活躍する人材を育成するための数々の取り組みを行ってきました。「日本文化

教育の架け橋！雲南省にて日本留学説明会を協会提携
大学と高校にて実施 日本に興味のある学生が多数参加

理解研修」を初め「日本雲南大学生交流グローバル人材育成プログラム」を毎年実施するなど、昆明市内の複数の大学と提携を結び、これら事業を継続して実施してきました。この結果協会プロジェクトへの参加者から日本への留学、そして日本から雲南への留学生が増加するなど、相互交流が活発化。更なる教育交流を目指し、協会の後援協力により2016年11月1日から3日まで、昆明初となる日本留学説明会が協会と提携している雲南財經

大学、雲南外国語学校、雲南民族大学、昆明理工大学、雲南大学演池学院、雲南師範大学の6校で開催されました。大学等の教育機関で日本語を学ぶ学生が多い昆明において初めての日本留学説明会とあって、各校100名以上が参加し、大盛況となりました。

説明会では日本留学の手続き、学費から日本の生活、文化まで幅広く説明があり、参加者からは積極的に様々な留学を想定した質

問がでました。

協会は日雲を結ぶ架け橋として今後も雲南にて継続的に日本留学説明会を開き、多くの雲南学生が日本に留学して、優秀な人材へと育つお手伝いを続けていきます。

主催：株式会社さんぼう（協会法人会員）
後援：日本雲南連誼協会、雲南財經大学、雲南外国語学校、雲南民族大学、昆明理工大学、雲南大学演池学院、雲南師範大学

アジア未来への人材育成プロジェクト
インターンシッププログラム in 雲南支部

「社会人を経験してみたい」「自分にどんな仕事があるのか試してみたい」という大学生が、在学中に企業などで「職場」を体験するインターンシップ。現在では多くの学生がインターンシップに参加しています。協会でも2014年から「アジア未来への人材育成プロジェクト」の一環として東京本部と雲南支部でインターンシップを受け入れ、これまでに110名を超す学生が参加しました。希望する企業に就職したり、日中のかけ橋となるようなボランティアを行ったりしている人材も育ち、協会インターンシッププログラムは実を結びつつあります。

雲南師範大学メディア学院アニメーション専攻の劉芮彤さんは、2016年11月に昆明で初めて開催された日本留学説明会に参加して「NPOについて知りたい。もっと実践的な日本語を身につけたい」と協会の門を叩きました。独学で日本語を勉強し、日本語能力試験で一番難しい等級の合格を目指して奮闘中の劉さんは、大学の冬休みを利用して雲南支部で約2か月のインターンシップに参加しました。

劉芮彤さん



以前、私は時間を有効に使っていませんでしたが、インターンシップ中は、時間を考えて作業する必要があります。そして真剣に、協力して任務を果たさなければなりません。協会で学んだことは将来、大学を卒業して社会に出た時、大きな助けになると思います。

インターンシップを通じて、「25の小さな夢基金」のことを知りました。これまでの協会の努力により、志のある春学生たちが、勉強を続け、夢を実現し、人生を変えました。本当に素晴らしいことです。サポーターと春学生たちとの手紙を翻訳した時、サポーターの春学生に対する温かい気持ちと、生徒たちのサポーターに対する感謝の気持ちを感じました。一通一通の小さな手紙は愛に満ちていました。協会のインターンシップで、ボランティアの楽しさと他人を助ける喜びが心の中に溢れました！今回、インターンシップの機会を与えてくれた協会にとても感謝しています！

次世代の若者に受け継がれるボランティアの心

雲南学生・劉穎さん、王寧さん来訪



雲南大学演池学院日語科を卒業後、現在北海道大学に留学中の王寧さんが、修士論文の相談をするため、東京の事務所に初鹿野恵蘭理事長を訪ねてきました。雲南で協会の活動に参加して興味を持ち、「協会の教育支援プロジェクトについて修士論文を書きたい」と思ったとのこと。今後はできるだけ活動に参加して、他の参加者にインスピレーションをあたためて論文を完成させるそうです。

協会活動に賛同する人材が育っていることはとても喜ばしく、協会としても彼女を応援していきます。王寧さんの今後の意気込みをご紹介します。



私は中国の雲南大学演池学院で日本語を勉強していたとき、

左から林則幸理事長、初鹿野恵蘭理事長、王寧さん、劉穎さん
協会の「2013支援校児童劇巡回公演」にボランティアとして参加しました。その際、雲南省の貧困地域に暮らす少数民族の子供たちの生活を間近に見る機会があり、大きな衝撃を受けました。自分の生活はどれほど恵まれているのか、そして、彼らの生活がいかに大変であるか、その現状を今も忘れることができません。2016年10月、北海道大学大学院環境科学院実践環境科学コースに進学し、山中康裕教授の御指導のもと、修士論文の研究を始まりました。協会の「25の小さな夢基金」プロジェクトを通じ、支援者と支援される女子学生の考え方がどのように変化し、彼女たちの人生にどのような影響を与えるのかを明らかにしたいと思います。苦しい子供たちの姿を思い出して、子供たちのために何かで少しでも役に立ちたいと思います。大学時代に素晴らしいチャンスを与えていただき、活動に参加させていただいて、誠にありがとうございます。これから一生懸命頑張りたいと思います。

北海道大学大学院環境科学院
実践環境科学コース1年 王寧

こんにちはCSR

一協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ

MS&AD

第16回●三井住友海上火災保険株式会社

三井住友海上

三井住友海上火災保険株式会社は、持ち株会社 MS&AD ホールディングスの「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と健全な未来を支えます」の企業理念に基づき、社会貢献活動にも地球規模で取り組んでいます。午後の日差しが徐々に降り注ぐ同社別館の「ECOM 駿河台」で、グループ全体の CSR 事業を統括する CSR 推進室長であり、同社の地球規模・社会貢献室長でもある山ノ川実夏氏にお話をうかがいました。

三井住友海上火災保険株式会社の CSR 活動は「活力ある社会の発展と地球の健全な未来」を活動理念とし、「4つの社会的課題(事故・災害、気候変動による自然災害、高齢化社会の医療・介護負担、地域社会の活力低下)」に基づいてさまざまな活動を行っています。

その基盤となっているのが社員の有志で構成する任意団体「MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ」です。有志のみならず月額100円を給与天引きで拠出する募金を基金として、これまでに国内では災害被害者支援はもとより、地球温暖化防止や環境保護活動として、琵琶湖のブルーギル釣り大会や渡良瀬遊水池の葦刈りなど、社内レクリエーション

も兼ねて開催しています。またヨーロッパ、中東、アジアの戦災孤児やストリートチルドレンに支援の手を差し伸べてきました。こうした活動に国内だけで年間約16,000人(2015年)の社員が参加しています。

1992年から続く「チャリティー・クリスマスカード」は、戦争や災害で被害を受けた世界中の子どもたちが描いた絵をクリスマスカードとして販売し、これまでにおよそ40万枚を作成し、5千万円を超える売り上げを達成しました。その利益はNGO団体「子供地球基金」を通して、病気や戦争、災害で傷ついた国内外の子供たちの生活支援に活かされています。

同様に今年で27年目を迎える「世界の子



どもたちへ編み物作品を贈ろう」プロジェクトは「あなたをわすれていません」というメッセージが込められています。プロジェクトの開始当初は、作品の制作から梱包、発送まですべてを社員の有志が行っていましたが、回を経るごとに扱う数量が増大し、プロジェクトの運営に困難をきたしたことから、国際支援活動を行うNGOワールド・ビジョン・ジャパンに声をかけたことをきっかけに、(株)日本ボグ社や公益財団法人日本手芸普及協会など、さまざまな外部企業・団体から支援が得られるようになりました。このプロジェクトがきっかけとなって誕生した社内の「ニットサークル」と外部支援者を含め、日本全国で1000人を超える「編み手」ボランティアが、これまでにセーター 22,000枚、マフラー 16,000本、帽子17,000個をチェルノブイリ、ロシア、サハリン、旧ユーゴスラビア、モン

ECOM駿河台ではチャリティー・クリスマスカードの原画展が開催されました。子供たちが描いた色鮮やかな原画を前にして、山ノ川室長の温かな眼差しが輝いていました。

ゴル、バキスタン、ベトナムの子どもたちに、そして日本の災害被災地の子どもたちに贈りました。企業内ボランティア活動が外部の協力を得ることで、ボランティアに参加する一人一人に無理のない、持続可能な活動を実現しています。

山ノ川室長はセルビアを実際に訪問し現地の状況を自分の目で見たとき、子供たちが置かれた環境の酷さに衝撃を受けたそうです。子どもたちから送られてくる感謝のメッセージが「なおさら大きな励みになっている」とおっしゃっていました。山ノ川室長のお話の隅々からCSR活動に対する熱意がひしひしと伝わってきました。

協会概要 損害保険業を柱に事業を展開するMS&ADインシュアランスグループホールディングス傘下の企業。「他者を思いやる心」を大切に、地球環境、社会貢献を目指し幅広いCSR活動を展開。1991年より国内外の子どもたちへの支援活動を行い、1993年に「MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ」を発足。活動に賛同する社員がNPOへの寄付や同クラブの社会貢献活動へ寄付を行っている。

本社所在地 〒101-8011 東京都千代田区千田駿河台3-9
HP: <http://www.ms-ins.com/>
※CSR=Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

法人会員一覧 (入会順、敬称略)

株式会社フジブラニング
学校法人平成学園 高尾幼稚園
日経印刷株式会社
株式会社加藤文書社印刷所
株式会社完善堂
二葉紙業株式会社
昭和情報プロセス株式会社
株式会社村上製本所
図書印刷株式会社
中庄株式会社
全日本鉄道労働組合総連合会 (JR総連)
港北出版印刷株式会社
日本貨物鉄道労働組合
プランニングスマーケット
東西商工協同組合
JR東海労働組合
太宰府天満宮
メディネットインターナショナル株式会社
株式会社ナイテイングール
株式会社コーディネアリティエ
綿半ホールディングス株式会社
株式会社大月カントリークラブ
社会福祉法人さくら福祉会
株式会社BYM
株式会社タカソノ
サッポロホールディングス株式会社
アサヒグループホールディングス株式会社

NPO法人劇団通化
昭和印刷加工有限公司
株式会社キッツ
株式会社リッパハット
株式会社ビー・アンド・アイ
株式会社さんぽう
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社日商平野

2016年 新会員ご紹介 (入会順、敬称略)

渡辺瑞/郭坤龍/徐輝/王智宗/許虹/楊智輝
常保盛/羅中沢/胡麒麟/鈴木照/吳嵐/劉榮
竹内白苑/田野道之/株式会社さんぽう/松本馨/叶青
我妻孝文/三井住友海上火災保険株式会社/大谷武彦
松橋好文/小林公雄/平山裕一/高田尊信
株式会社日商平野/平馬頼久/西香名子/高橋節子
米瀬和英/日本貨物鉄道労働組合北海道地方本部
日本貨物鉄道労働組合東北地方本部/日本貨物鉄道労働組合関東地方本部/日本貨物鉄道労働組合東海地方本部
日本貨物鉄道労働組合関西地方本部/日本貨物鉄道労働組合九州地方本部/今城小百合/石井佑加子/周金娉/毛怡/小原ハツ/王静/任家慶/湯浅雅子/董紅俊

おかげさまで 17年、協会の活動は皆様の志によって支えられています。心より御礼申し上げます。



協会支援25校目・瀘江県勐腊县勐爱小学(徳安州タイ族チンポー族自治州)のリス族の子どもたち

雲南少数民族の貧しい子どもたちに豊かな未来を! 協会活動を応援して下さる会員を募集しています!

※正会員と法人会員には総会における議決権がありませんが、賛助会員には議決権がありません。
※4月1日から3月31日までを1年度とします。
※年度途中でご入会の場合は初年度の会費は入会月から年度末(3月)まで月割で計算させていただきます。

会員には会員証を発行し、年4回(2月、5月、8月、11月)、会報誌『彩雲の南』をお送りいたします。

お申し込み

協会公式HP
(<http://www.jyfa.org>)

支援に
参加する

会員になる

正会員・法人会員・賛助会員の皆様へ

新年度(2017年4月~2018年3月末)の会費請求書を4月初旬にご登録いただいているご住所に送付致します。

お手元に届きましたら、開封の上、ご確認をお願い致します。

協会活動は会員の皆様の会費とご寄付に支えられています。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします!

日本雲南聯誼協会は東京都から認定を受けたNPO団体です。協会へのご寄付は所得控除の対象となります。詳しくは協会事務局までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ 東京本部事務局 (月~金、10~18時)

TEL 03(5206)5260

FAX 03(5206)5261

✉ yunnan@jyfa.org



第16回チャリティー忘年会



関係者の皆さんに協会の一年間の活動を報告するとともに、会員間の親睦を深める毎年恒例のチャリティー忘年会が12月17日(土)、ピヤステーション恵比寿(東京都渋谷区恵比寿ガーデンプレイス内)で開かれました。主賓に中国駐日大使館領事部の李紅玉一等書記官兼領事、邢梅蓉領事を迎え、約100名が参加しました。

日本と雲南少数民族 友好の夕べ

李紅玉一等書記官兼領事は「日本雲南聯誼協会は、雲南の子どもたちのために16年間にわたって小学校建設を行い、近年は日雲の学生間の交流にも力を入れている。このような草の根交流にとても感謝している。これからも雲南の貧しい子どもたちのために活動を続けてもらいたい」とあいさつしました。

感謝状贈呈式では、「25の小さな夢基金」で多数の生徒を支援していただいている胡小龍様、協会理事の唐澤英安様と桂正徳様、大官支部のイベントなどで協力いただいている鳥羽



清弘様と川口邦夫様、協会の活動に参加いただいた佐藤安奈様と張昱様の個人7名と、「25の小さな夢基金」サポーターと春蕾生の手紙を翻訳していただいている「日中文化交流市民サークル『わんい』」の2団体に初鹿野恵蘭理事長が感謝状を渡しました。

ご参加いただきました皆様、ご寄付・景品をいただきました皆様へ御礼申し上げます。ありがと

協力(順不同、敬称略):

サッポロホールディングス株式会社 株式会社技術評論社 株式会社東京プラザホテル 参加者全員

ボランティア協力(順不同、敬称略):

董紅俊、張南、アリア・スマイ、瀧澤大樹、宗野航来、若林謙、佐藤安奈、張昱、程恬、土田淳志、上原正夫



AO AKUAさん

第12回雲南省少数民族 貧困児童教育支援 チャリティーゴルフコンペ 「25の小さな夢基金」 支援生決定ご報告

チャリティーゴルフコンペが2016年10月15日土に大月カントリークラブ(山梨県)で行われ、新たに3名の生徒を支援することになりました。

ご参加いただいた皆様にご報告し、感謝申し上げます。



馬芳さん 回族 山西出身
王素然さん チワン族 昆明出身
趙琦霞さん 漢族 曲靖出身

ゴルフコンペで雲南少数民族

教育支援に参加しませんか?

2017年のチャリティーゴルフコンペは10月21日(土)に大月カントリークラブで開催されます。ふるってご参加ください!

イベント報告

雲南省人民政府 招商合作局主催
2016中国雲南省・日本経済合作懇談会in東京

王青梅 副局長

「2016中国雲南省・日本経済合作懇談会in東京」が11月18日(金)、京王プラザホテル(東京都新宿区)で開かれ、物流関連企業18社23名が参加しました。

冒頭、ハウス食品グループ本社株式会社元顧問で協会の野村孝志顧問が日本側を代表して挨拶。雲南省招商合作局 王青梅 副局長が同省の産業、インフラ、交通・輸送などビジネス環境について基調講演しました。物流産業については、同省商務庁物流産業弁公室の董其然主任から「すでに日本の物流企業の進出が始まり、物流量が増え



ている」と説明がありました。

懇談会後、別会場で懇親会も行われ、和やかな雰囲気での情報交換を行いました。

主催：雲南省人民政府、雲南省招商合作局
協賛：株式会社みずほ銀行、日本産業投資技術促進株式会社、認定NPO法人日本雲南聯誼協会
ボランティア協力(順不同、敬称略)：岩澤千衣、小牧恵介、宗野航来、程恬

第37回 ハ王子いちょう祭り

テーマ：SAY YES! Challenge together!
「YESをはじめよう!」

第37回ハ王子いちょう祭りが11月21日(土)、22日(日)に開かれ、協会は今回も並木町郵便局隣の空き店舗に出展しました。初日はあいにくの雨で人も少なかったが、二日目は快晴に恵まれ、二日間合計で約49.3万人(主催者発表)が訪れました。峰尾勝美会員をリーダーに、大学生交流プログラムに参加した日本大学生とベテランボランティア、協会役員などが雲南少数民族の衣装を身にまとい、プーアル茶の試飲をすすめたり、協会活動を説明したりしました。毎年、協会ブースを訪れてくれる方々との再会は楽しみの一つになっています。

主催：ハ王子いちょう祭り祭典委員会
ボランティア協力(順不同、敬称略)：峰尾勝美、峰尾洋子、森保次郎、宋愛平、岩澤千衣、岩澤浩太、岩澤晴人、土田淳志、小牧恵介、初鹿野仁、東郷浩

2016年度
第3回理事会及び
役員・顧問会
開催報告

今年度3回目となる理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日 時：2016年11月29日(火)

理事会15:30～17:00

役員・顧問会17:00～18:00

場 所：株式会社技術評論社5階 501会議室

司会進行：滝澤 崇 理事

参加人数：16名(事務局含む)

【議案】「25の小さな夢基金」について、協会運営資金について、第16回チャリティー忘年会について、2017年度プロジェクトについて

【報告事項】「50の小学校プロジェクト」支援25校目「ふれあいの旅」終了報告、第4回日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム終了報告、熊本地震支援報告等

江戸川人生総合大学
初鹿野恵蘭理事長 講義

テーマ：「日本に住む中国の人々の活動について」

初鹿野恵蘭理事長が12月13日(火)、東京都江戸川区のコミュニティカレッジ「江戸川総合人生大学」で講義を行いました。初鹿野理事長は2012年から年1回講義を行っており、今回は国際コミュニティ学科の1年生である20代から80代までの28名が受講しました。映像で「50の小学校プロジェクト」や「25の小さな夢基金」などの支援活動を紹介したところ、協会活動に興味を持ち、ボランティアとして参加してみたいという学生が大勢いました。

JR 総連 2017年新年の集い

初鹿野恵蘭理事長出席

協会法人会員である「全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連)」の新年の集いが1月11日(水)、目黒雅叙園(東京都目黒区)で開かれました。鉄道関係者、政財界など約300名と、協会からは初鹿野理事長、滝澤崇理事、林則幸理事が出席しました。

昨年6月に就任した榎本一夫執行委員長は「今年、JR総連は結成30周年を迎える。課題は山積しているが、皆さんと家族の命を守るために頑張っていきたい」とあいさつしました。



榎本一夫執行委員長 中央

武井政治 JR総連顧問

キッツグループ 新年賀詞交歓会

林 則幸理事 出席

協会法人会員として「25の小さな夢基金」を支援していただいている株式会社キッツを含むキッツグループの新年賀詞交歓会が1月5日(木)に帝国ホテル(東京都千代田区)で開かれ、関係者600名超が出席。協会の初鹿野恵蘭理事長と林則幸理事も出席しました。同社の堀田保之社長は「5年後の創業70周年に向け、力強く進んで行こう」と意気込みを述べました。

2017年旅日華僑華人
新春招待会

初鹿野恵蘭理事長 出席

中国駐日大使館主催の「旅日華僑華人新春招待会」が1月13日(金)に開かれ、初鹿野恵蘭理事長ら日本で活躍する華僑・華人約400名が春節を祝いました。冒頭、程永華特命全權大使は「2016年の中日関係改善に重要な一年であった。両国関係は必ず正常な発展の軌道に戻る。」とあいさつしました。

程永華大使、汪婉大使夫人、協会チャリティー忘年会にご出席いただいた李紅玉一等書記官兼領事に、協会活動への協力に対する感謝を伝えました。

程永華特命全權大使(左)と初鹿野恵蘭理事長(右)

2017年
活動予定

※●：日本／■：雲南

- | | |
|-----|--|
| 1月 | ■ 大宮支部 新年会(さいたま市) |
| 2月 | ● 第24回ファン・ワールド・フェスティバル(大阪市)
● 2016年度第4回理事会及び役員顧問会(東京本部)
※会報誌「彩雲の南」60号発行 |
| 4月 | ● 新年度会費請求 |
| 5月 | ● 2017年度第1回理事会及び役員顧問会(東京本部)
● 第17回定時総会(東京)
● さいたま国際友好フェア(さいたま市)
※会報誌「彩雲の南」61号発行 |
| 6月 | ■ ふれあいの旅・春養生卒業式の旅(雲南各地) |
| 7月 | ■ 「25の小さな夢基金」第9期卒業式(昆明)
■ 「25の小さな夢基金」上海日本人学校交流会(上海) |
| 8月 | ● 2017年度第2回理事会及び役員顧問会(東京本部)
■ 雲南支部 夏期インターナショナル
※会報誌「彩雲の南」62号発行 |
| 9月 | ■ 第4回日本雲南大学生交流グローバルリーダー育成プログラム(東京他)
■ 「25の小さな夢基金」第12期生入学 |
| 10月 | ● グローバルフェスタJapan2017(東京)
● 第13回雲南省教育支援チャリティーゴルフコンペ(山梨県)
■ 第8回「夢は叶う」講演会(昆明) |
| 11月 | ● 2017年度第3回理事会及び役員顧問会
● 第38回ハ王子いちょう祭り(八王子市)
※会報誌「彩雲の南」63号及び特別号発行 |
| 12月 | ● 第17回チャリティー忘年会(東京) |

お知らせ

「25の小さな夢基金」第9期生
愛と感動の旅立ち
卒業式「ふれあいの旅」

雲南の少数民族女子高生をサポートする「25の小さな夢基金」。7月、春養生は3年間、青春を過ごした昆明市女子中学を卒業します。協会では卒業式に参列し、協会支援小学校を訪問する「ふれあいの旅」を実施しています。彼女たちの感動的な卒業式に参列してみませんか。

旅の見どころ(予定)

- 感謝の気持ちをこめた感動的な春養生卒業式参列
- 東洋のグランドキャニオン・怒江にある「50の小学校プロジェクト」支援校訪問
- 山岳民族のトールン族(独龙族)、ヌー族(怒族)の村で少数民族の生活を体験



日程・参加費など詳細のお問い合わせは……
日本雲南聯誼協会東京本部事務局
TEL. 03-5206-5260(平日10時～18時)
✉ yunnan@jyfa.org

お知らせ

協会の
最新情報
発信中!

- Facebook「いいね!」「シェア」をお願いします!
「日本雲南聯誼協会」公式アカウント
<https://www.facebook.com/NPO.JYFA>
「雲南省 少数民族の女子学生に夢を」25の小さな夢基金」公式アカウント
<https://www.facebook.com/25foundation>
- ブログ「雲南の郵便屋さん」
<http://blog.canpan.info/yunnan/>
- Wechat(微信) 協会公式アカウント ID: rbynlyxh
※中国語が分かる方はぜひ登録してください



協会の公式ホームページ

編集後記

介護職場での外国人の受け入れ枠が拡大されます。日本では2025年に約38万人の介護職が不足するとみられる一方、これまで外国人の受け入れは、フィリピンなど3カ国と

結んでいる経済連携協定の枠組み内に限られていたからです。言葉の壁などはあるでしょうが、協会が支援する子どもたちが働けるのであれば歓迎したいと思います。経済的に恵

まれずに育った彼女たちには、何よりつらい人たちの気持ちをくみ取れる優しさがありますから。

(編集長・木本 一彰)